



曲

曲志一馬身以信元多識身能市井者
神史以為生業立志卓然於岐自居而為學不倦
精力過絕夫而益壯者固非世之一丈夫也乃如本
卷可亦觀其面目一斑也夫

昭和七年五月十四日 大國白學共官三教書



此の原は仰り申す

高きと云ふは

牌の字を

十二の字

有るは

十の字

は

九の字

八の字

七の字

六の字

五の字

四の字

三の字

二の字

一の字

字

は

十

の

字

は

十

の

字

市井の風俗

の

あり

は

い

ふ

は

い

ふ

は

い

ふ

は

い

ふ

は

い

ふ

は

い

ふ

は

い

ふ

は

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of names. The text is written on a strip of paper and includes various characters and symbols, possibly representing musical notes or specific names. The script is dense and flowing, characteristic of a cursive hand. The text is arranged in a single line across the width of the strip.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 20 vertical columns, reading from right to left. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. The columns contain various symbols, including loops, lines, and dots, which represent characters or words. The overall appearance is that of a dense, continuous flow of information, possibly a list or a set of instructions.

正徳元年八月二十日

右様 御座りませう

下様之方御座りませう

少許 幸へたう御座りませう

以て 御座りませう

乃 御座りませう

定む 御座りませう

極む 御座りませう

と 御座りませう

度々 御座りませう

上子 御座りませう

井村 御座りませう

と 御座りませう

と 御座りませう

極む 御座りませう

一と 御座りませう

何と 御座りませう

と 御座りませう

此 御座りませう

何と 御座りませう

何と 御座りませう

色 御座りませう

何と 御座りませう

極む 御座りませう

何と 御座りませう

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

其の...
...

此書は...の...

又使...
又使...
又使...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一 乃のち及て候はしむるに

をばあはれに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

候はしむるに候はしむるに

川有... 行...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

くみかたの...
ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

ついでに...

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

あはれなる心にて

その御用を御用
の御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

その御用を御用

そのうちをばれども、
後から

願ふまじき、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

あまのこゝろ、
おのれをばれども、

此の書は、*Deus in Christo* の

その同様に、*Christus in Deo* の

一説は、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

の、*Christus in Deo* の

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 15 lines of text.